

ダクト発生7~0エリア間オープン情報

2006年10月 9日~10日 JG0TEV 中村

10月 9日のダクト発生域 (推定)



7~0エリア間オープン状態が確認されました

9日のオープン情報

夜間になってダクト発生による7~0エリア間オープンが確認されました。
JG0TEV自宅チェック結果・・・
20時頃自宅GPにて439.12立山レピータのアクセス可能状態を確認。

J071ZC須藤さん情報・・・

22時頃秋田県にかほ市より0エリアまでのオープン状態を確認。

日本付近は移動性高気圧に覆われて乾燥空気が流れ込んだことによりダクト発生条件がそろいやすくなったと考えます。

10月10日のダクト発生域 (推定)



ダクト発生による
0~7エリア間オープンが確認されました

10日のオープン情報

J071ZC須藤さんからの情報・・・

20:15 J10HIJ (新潟県三条市)-J071ZC (秋田県にかほ市) RS59-59

20:39 JH00KT (新潟県三条市)-J071ZC (秋田県にかほ市) RS51-55

JG0TEV長岡市自宅GPではキャリアが確認できる程度であったことから、海上のみ中心としたダクトであったと推定する。

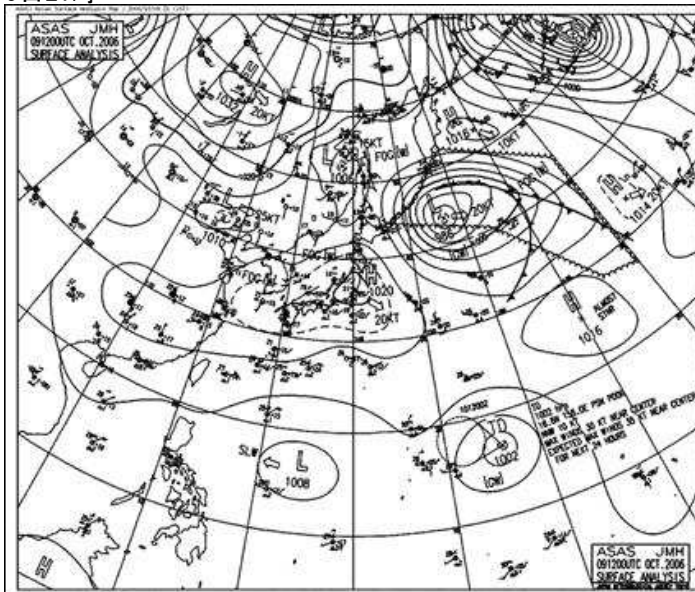
日本付近は移動性高気圧に伴う乾燥空気の流れ込みと下降流、負渦度領域に覆われたことによってダクト発生条件がそろいやすくなったと考えます。

気象解析

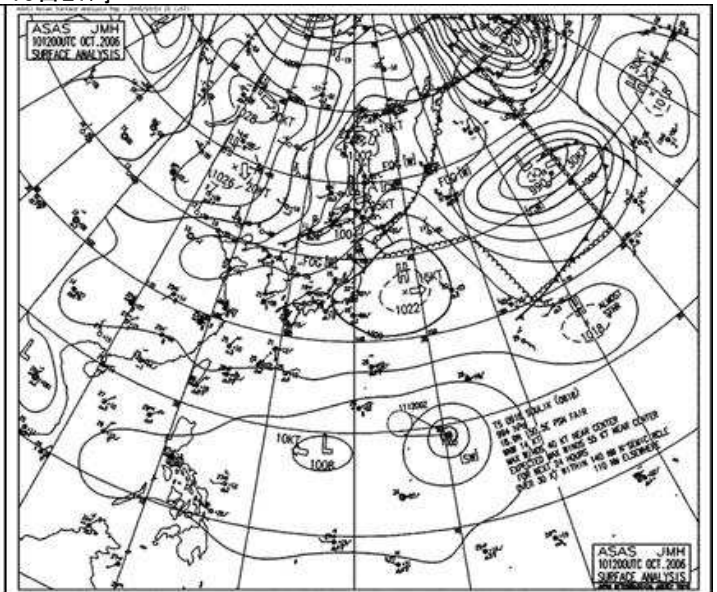
地上天気図から 秋の空気を伴った移動性高気圧が勢力をやや強めながら本州付近を通過していたことがわかります
850hpa面解析図をみると、期間中の日本付近は1,500mの等高度線で囲まれた領域に広く覆われていたことがわかります。

地上天気図

9日21時

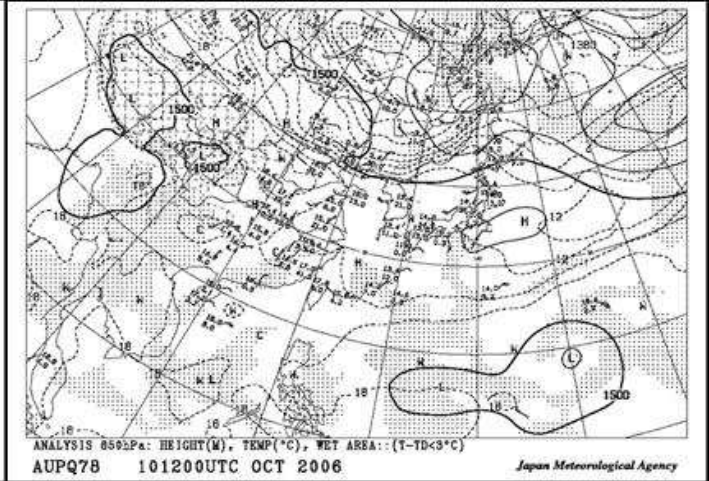
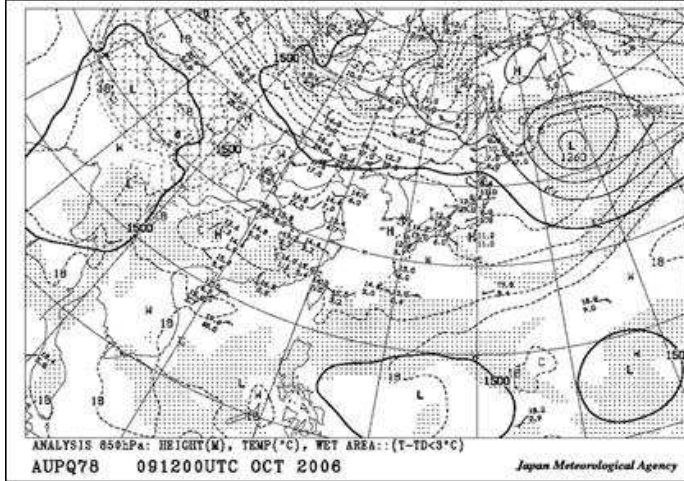


10日21時



850hpa面高度・気温・湿数
9日21時

10日21時



500hpa面の等高線を見ると、日本付近は5,700mを越えていて高気圧の勢力圏内といえます。

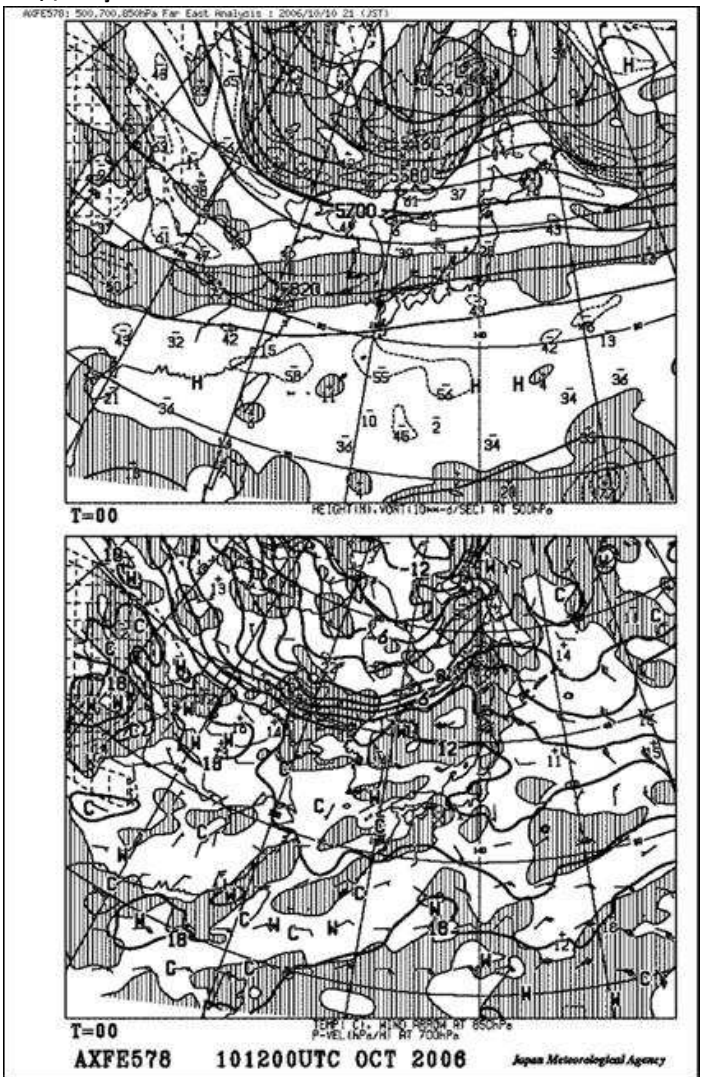
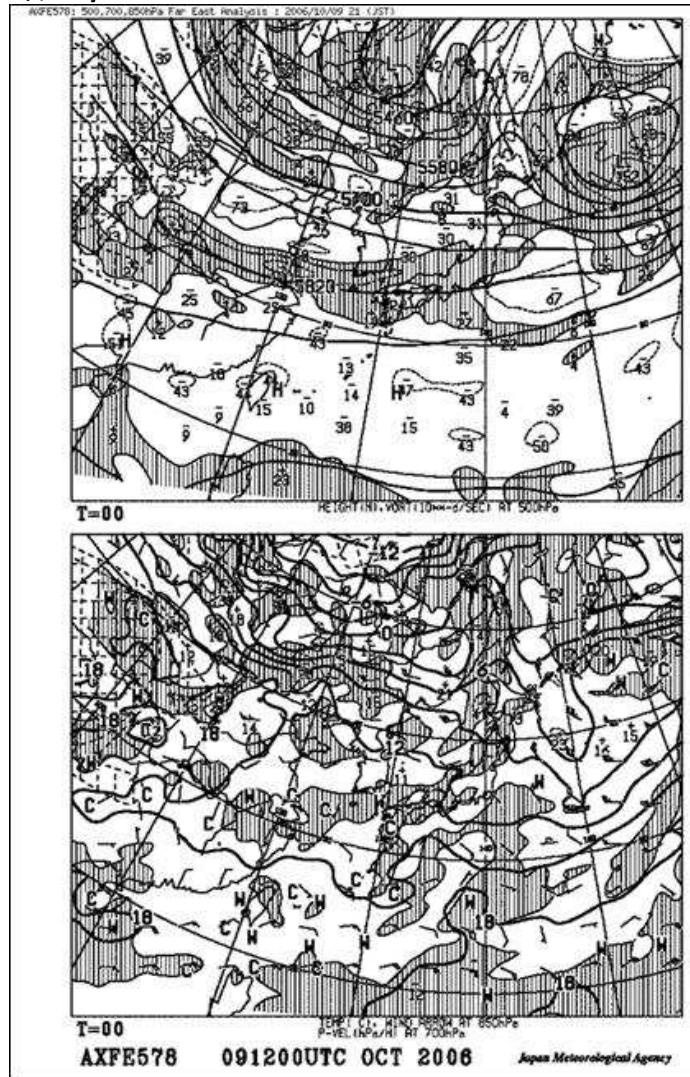
目だつたリッジは解析されていませんが、目だつたトラフもまた解析されていません。

700hpa面鉛直流解析図では9日は上昇流域、下降流域ともに拮抗しています。10日は北日本で上昇流域が顕著ですが、暖気移流による空気の膨張で上昇流域となって解析されているものと考えます。

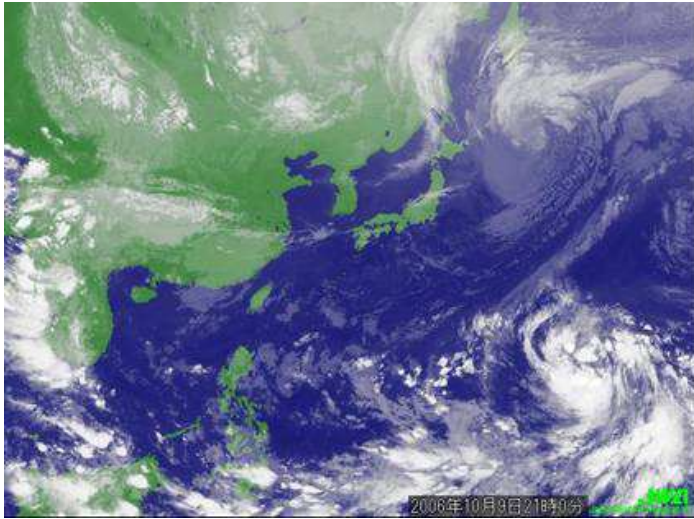
以上から、ダクト発生条件はそろいやすい状態であったと考えられます。

500hpa面高度と渦度・700hpa面鉛直流と850hpa面気温
9日21時

10日21時



【参考】赤外線雲画像
9日21時



10日21時

